

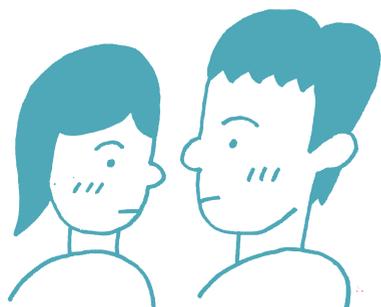
ウィングス京都

GENDER HANDBOOK

ジェンダーハンドブック

必ず知ってほしい、
とても大切なこと。

性的同意



“もしものとき”の相談窓口



あなたが望まない性的な行為は、すべて性暴力です。
もしかしたら自分が悪かったなどの自分を責める気持ちが
起きているかもしれませんが、性暴力はあなたの責任ではありません。
ひとりで悩まないで相談してください。



♡ 京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター 京都SARA(サラ)

相談専用電話 **075-222-7711**

相談受付時間 **24時間 365日** ※22:00～翌10:00は内閣府が設置する
夜間休日対応コールセンターにつながります。

行政、医療機関、警察、弁護士会、民間団体等が連携して、性暴力による被害を受けた方へ、
被害直後から中長期にわたる総合的な支援(医療的支援、相談・カウンセリング等心理的支援、
捜査関連支援、法的支援)を提供する相談窓口です。

♡ 性犯罪被害相談電話全国共通番号 #8103 (ハートさん)

#8103 ハートさん 毎日24時間受付、性犯罪被害に関する相談であれば、男女を問わず誰でも
相談できます。緊急の場合は、110番通報してください。

♡ 京都市男女共同参画センター ウィングス京都 相談室

電話相談 **075-212-7830** 面接予約 **075-275-9933**

月・木・金・土 10:00～17:00 火 10:00～20:00 ※水・日・祝日、12/29～1/3は休み

♡ 京都犯罪被害者支援センター

電話 **075-451-7830** 月～金 13:00～18:00
※ 祝日・休日、8/12～8/16、12/28～1/4は休み

[発行]

公益財団法人 京都市男女共同参画推進協会

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262
TEL: 075-212-7490 FAX: 075-212-7460 <https://www.wings-kyoto.jp/>

この冊子は、関西の大学生有志と(公財)京都市男女共同参画推進協会の協働で作成しました。

企画やテーマについて何度も話し合い、彼・彼女らが取材等を通じて学んでいった過程です。ぜひ、手に取ってみてください。

平成30年8月発行 令和6年1月改訂

まずは第一歩！

“性的同意”を取るって、どういうこと？ チェックはいくつ入りますか？

- check 1 二人きりでデートに行くことは、性行為を前提としている
- check 2 キスをしたら、性行為をしてもいい
- check 3 相手がイヤと言っている、「イヤよ、イヤよ、も好きのうち」なので、性行為をしていい
- check 4 相手がイヤと言っていなかったら、性行為もOKのサインである
- check 5 酔った勢いで、性行為に及ぶのはしかたがない
- check 6 互いに成人していれば、性行為の際に同意を求める必要はない
- check 7 家に泊まるのは、性行為をしてもいいというサインだ
- check 8 付き合っていれば、性行為をするのは当たり前だ
- check 9 同じ相手に、毎回、性行為の同意を取る必要はない
- check 10 ナイトクラブに来る人は出会いや性的交遊を求めて来る人が多いので、性行為に際して同意を取る必要はない

Notice!

要注意！一つでもあてはまるなら、
“性的同意”は取れていないということ！

セクシュアル・コンセント

性的同意

この言葉、みなさんは聞いたことがありますか？

今回、このハンドブックを大学生と協働で制作することになり、彼ら、彼女たちがキーワードに挙げたのが「性的同意」という言葉でした。初めて、目にする方も多いかもかもしれません。

「性的同意」とは、簡単に言えば、性にまつわることについて、あいまいにせず、相手の意思を互いに確認するということ。

この「性的同意」を取り上げ、広く知ってもらいたい理由のひとつが、互いの意思が確認できていない＝同意が取れていない「性行為」が、「性被害」や「性暴力」につながる可能性があるから。

「それって、そんな、大げさな話？」

そう思っている人たちこそ、理解してほしい、そして、お互いきちんとコミュニケーションをとり、性に向き合ってほしい、そんな若者たちの思いから始まった企画です。

あなたの身近な人が、大切な人が、被害にあう。

そんなことは、誰もが避けたいはず。情報が身を守ってくれることもあります。

知っていれば傷つかずにいられたかもしれないのです。

ぜひ、この1冊を大切な人と読んでほしい。そんな思いで作りました。

もくじ index

- P 03 まずは第一歩！ “性的同意”を取るって、どういうこと？
- P 04 チェックしてみた！ 私たちが考える“性的同意”ってこんなこと
- P 06 海外の“性”事情を知ってほしい！ 日本と海外、どう違う？
- P 08 インタビュー① 京都 SARA 井上摩耶子さん
- P 10 インタビュー② 京都教育大学 関口久志さん
- P 13 誰も傷つかない 傷つけないために ブックリスト
- P 14 さいごに
- P 16 “もしものとき”の相談窓口

- S:** 関係性にもよるのに、家に泊ったらセックスも OK って思うのはセクシュアルな目で見すぎ。
- H:** 付き合ってたとしても、家に泊まったからオール OK な訳じゃない!
- N:** そうだね。お泊りデートだからといってセックスありきではないはずだよ。当日そういう気分じゃなくなることもあるんだし。
- M:** でも、付き合ってお泊りするなら絶対、セックスしなきゃっていうプレッシャーはある…。
- H:** そもそも、付き合っただけで、なかろうが、嫌って言えない状況を作ることがレイプだって考えるべきなんじゃない?
- S:** うん。性欲を持っていたとしても、そこで理性を使えないのだったら人間じゃない。相手の気持ちに寄り添うのが大事。



Q 相手がイヤと言ってなかったら、性行為もOKのサインである 付き合っていれば、性行為をするのは当たり前だ

- M:** 初めてのとき、何も知らなかったから断りにくかった。されるがままの状態だったから、「同意」なんて言葉、全然知らなかった。
- H:** わたしはムードが大切だと思うから、いちいち同意を取りたくないと思ってしまう。
- T:** 僕は、付き合ってた彼女に迫られたことはあったけど、眠いから今日は嫌って言う関係性だった。
- N:** やっぱり、NO と言ってなかったから OK じゃなくて、ちゃんと YES っていう積極的な言葉が同意だよ。
- S:** 聞いてると、コミュニケーションが少ないのかもね。まだ関係性が未熟なカップルに、同意してる、してないっていう不一致が起こりがちなのでは?
- N:** 関係性の未熟さが原因になってしまうこと自体が問題じゃない? 難しくても、「同意を取るのが当たり前だ」ってくらいになるのが、本当は理想だよ。



5人のミニレポート

チェックリストを通してみんなで話し合うことで、分かったことがいくつもあった。「根拠のない思い込み」、「勝手な決めつけ」、「暗黙のルール」、「無知」に「コミュニケーション不足」。

これって、全部「同意」以前なんじゃない?…。

チェックしてみた!

性的同意って何?

男女5名の大学生が集まり、「性的同意」のチェックリストのうち、いくつか気になるチェック項目について話し合いました。「性的同意」を取ることを難しくさせている点が見えてきたようです。

H:女 S:男 M:女 N:女 T:男

Q ナイトクラブに来る人は出会いや性的交遊を求めて来る人が多いので、性行為に際して同意を取る必要はない

- N:** 行く目的は人それぞれ。私は踊りたくてクラブに行くから、ちゃらいとか決めつけられるのは悲しい。
- H:** 場所やその人の職業、服装とかで決めつけるのはよくないね。
- T:** 決めつけっていうと、男性の方が性欲が強いっていうのもただのステレオタイプ。同意を取る・取られるのに性別は関係ないよね。
- N:** そうだよ。感じ方は人それぞれだから、自分の基準じゃなくて、相手の快、不快に合わせていかないといけないと思う。
- S:** でも、何となくだけど、男子は自分がリードしなきゃいけないっていうプレッシャーもあるよね。
- N:** どうして男性だけが「リードしなきゃ」って思ってしまうんだろう?



Q キスしたら、性行為をしてもいい

- S:** クラブでキスをされて、それは良かったんだけど、その後、ホテルに行こうって、しつこくて、嫌だった。
- H:** 性行為は、流れでするっていうのが多いので、2人きりになってキスして、でも、ここからは嫌ってなかなか言えない…。
- M:** うん。わたしは、好きだったらそのまま受け入れてしまう。
- N:** ボーダーラインは人それぞれであって、キスはいいけど性行為は嫌って人もいるので、やっぱり自分勝手に決めつけちゃうのは避けたい。



Q 家に泊まるのは、性行為をしてもいいというサインだ

- N:** 終電を逃したときとか、友達だと思って安心して泊るとき、あるよね。
- M:** わたしは「泊まるってことが同意したってことだよ」って親に言われてきた。男女でシェアハウスで生活してるけど、大丈夫なの? ってよく言われるよ。



話ろう！

海外の「性」事情を知ってほしい！ 日本と海外、どう違う？

前頁で見えてきたのは、日本の大学生が性に関して、話し合うことに消極的だということ。そこで海外では、性への考え方はどう違うのか、性教育や、性への取組はどのように行われているのか、イギリス、アメリカへの留学経験をもつ10代に、同世代の大学生がインタビュアーとして取材しました。

性について話すこと

- 留学中、友達と性について話した？そのとき、日本との内容や雰囲気の違いはあった？
- アメリカではカジュアルな雰囲気です話していたし、話すときは積極的に意見が出た。
- 日本でもオープンな女子はいるけど、大半の子は積極的じゃないし、日本は性に対してタブーの意識が強すぎると感じるな。セーフティネットとなるはずの機関や法律とかの情報もあまり知られていないのが現状だよな。SNSとかでも、性に関する話だけで、やっぱり発信しにくい雰囲気がある。そういったタブー視する雰囲気のせいで、性に対して漠然とよくないイメージが持たれ

- 「sex and relationship」(性と関係性) [注1]という授業が行われているところもあるよ。
- 「性」って関係性の上で成り立つものだしね。アメリカでは「キャンパスレイプ」といって、大学内での性的暴行が社会問題になっている。2015年に大学に対する調査が行われていて、学部生の女性の5人に1人以上が何らかの性的暴行の被害にあった(注2)とも言われているんだよ。
- そうなんだ。大学は何となく安全な場所ってイメージがあったけどそういうわけではないんだね。他にハリウッドの大物プロデューサーが若い女優に性的行為を強要した、みたいなのをテレビで見たよ。
- そうだね。その事件が発端で、性に対するムーブメント#MeToo(私も)が広がったよね。TwitterやFacebookを通じて、多くの著名人や一般の人も「私も同じ経験をした」と自身の経験を発信し始めたよ。
- あと、イギリスにはセクシユアルヘルスのための医療機関が各自治体にあって、友達も半年に一回は性病の検査に行ったりしてる。市民にとっても身近な施設で、ビルやコンドームも無料で提供されてるんだ。
- え、無料なの？
- そう、無料。避妊や性病予防の色んな選択肢が提示されているって、すごくいいことだよ

たり、恥じらいが生まれているところがあると思う。

- 性に対して恥じらう必要はないし、きちんと声に出して言えるようじゃなきゃ、何が大事かとかも分からないよね。
- 「性的同意」の認識はどのくらい浸透していた？
- 知ってる人は多かったよ。
- うん、大事なことだとして認識は持つてる。でも、友達に聞いたら、「知識はあるけど実行はできていない」という子もいて、「知っている」という状態から、「実行できる」状態の間にはまだまだ壁があると感じたよ。
- そうだよな。まずは知ることだけど、実行できていなければ意味ないもんね。日本では

て思う。あと、大学にも性教育のサークルがあってワークショップをしたり、コンドームを配ったり。大学内に、Health centerっていうのがあって、そこでは妊娠検査薬も誰でも無料でもらえたよ。

● そういうのって、日本じゃどこで検査したらいいかわからないし(注3)、ビルは女性側が負担するものだと思ってた。性に関する施設や情報との距離が近いっていいのはいいことだよな。

メディア・報道を読み解く力

- 留学中、性的な話題についての世論の傾向やメディアの取り上げ方は日本とどう違った？
- まず日本のメディアって、被害者の見た目や年齢にフォーカスしすぎじゃない？
- 前に「有名人が性的暴行」って報道があったとき、ネット上や週刊誌で被害者女性の写真が公開されて、びっくりした。
- うん、そうやって加害者じゃなくって被害者に注目するのっておかしいよね。
- 性的暴行なんかは実際に被害者がいる事件なのに、エンターテインメントみたいに取り上げられること自体が変じゃない？
- アメリカの報道はそんなことなかったよ。刑罰について議論されてたり、深刻な内容だった。友達とレイプ事件について話す機会が

Yuki: インタビュアー(留学経験なし)
Zeta: イギリスに留学
(2016年9月〜2019年8月)
Sara: アメリカに留学
(2016年9月〜2017年6月)

女性は性について受け身な部分があるから、同意形成も消極的になってしまってる。だからこそ、しっかりと教育する機会が必要だと思う。そうすることで、事前に事件を防いどり、万が一事件が起きてしまっても、社会全体でのその人の苦しみに寄り添えると思う。

嫌なことばちゃんと嫌って言えることは本当に大事。「断る」悪いことではないんだから、自分の体と心は主体的に守ろうとしないと。日常の会話でもオープンに話せる空気になれば、自分と他の人の性に関する認識の違いや、「当たり前」だと思っていたことが実は違ってた、というところにも気づけるし、問題や悩みがあったときも共有や相談がしやすいよね。まずはそういうところからなんじゃないかな。

日本と海外、異なる「性」の距離

- 日本と海外の「性」の考え方や距離の違いは
- イギリスでは、5歳から11歳の初等教育から

あったんだけど、「レイプって殺人と同じじゃん」って言って、すごく深刻に受け取っていたし、友人同士で話すときも真剣だったよ。

● 極端かも知れないけど、日本って性的な事件とかに関して、「被害にあった方も悪い」みたいな雰囲気を感ずるかも。

● でも、そういう報道がされることは、需要があるってことだよな。簡単に煽動されたり、炎上させて楽しんでいる視聴者がいることも悲しいな。結局、受け取る側の問題でもあると思うし、だからこそネットを含めてメディアは星の数ほどある訳だから、自分で正しい情報を探したり、報道を読み解く力も付いていかなきゃね。

注1 健全な関係性についてまた心理的な面から性を考える授業の紹介。

注2 2016年 Association of American Universities (AAU) が実施した Campus Climate Survey on Sexual Assault and Sexual Misconduct(2462名)のうちの女性では20%以上、男性は5%以上が、大学に入学したときから、非同意の性的接触を受けたことがあると答えた。

注3 京都市ではHIVの検査は無料。匿名で受診できます。

お問合せ

京都市保健福祉局医療衛生推進室医療衛生企画課
電話: 075-746-7200

京都市保健所業務(感染症
衛生関係)お問合せポット



性暴力被害者支援の現場

京都SARAで性暴力被害者の支援に取り組む井上さんに、現場から見てきたことについて、お話を伺いました。

京都SARA：京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター行政医療機関・警察・弁護士・市民団体等が連携して、性暴力による被害を受けた方へ、被害直後から長期にわたる総合的な支援を提供するため、平成27年8月に開設した相談窓口。ウィメンズカウンセリング京都が運営を受託している。



井上 摩耶子さん

ウィメンズカウンセリング京都代表
同志社大学大学院文学研究科修士課程
修了。心身障がい児通園施設・高等学校での
心理カウンセラー、大学講師を経て、
1995年9月より「ウィメンズカウンセリング
京都代表、カウンセリング、サポート
グループ活動」とともに、性暴力・DV被害
者のための法廷での代弁・擁護活動に取り
組む。日本フェミニストカウンセリング
学会認定フェミニストカウンセラー。
「京都SARAスーパーバイザー」。

Q 「京都SARA」では具体的にどのような支援をされていますか。

井上 まずは電話相談、次に直接来てもらって顔を見てお話をする来所相談をします。そこで、どのような性暴力を受けたのか、回復のために被害者がどのようなことを望んでいるのかを聞きます。京都SARAは警察、産婦人科、教育委員会、弁護士会、学校などにつながっています。今までの都道府県のワンストップセンターというのは、警察が産婦人科病院に拠点があるんですけど、京都SARAはカウンセリングルームが拠点になっているので、より相談しやすいのではないかと思います。相談に来られる方は女性だけでなく、男性被害者やLGBT等の性的少数者、児童や知的障がい者の方もいます。

Q 性暴力の加害者には、どのような人が多いのでしょうか。

井上 性暴力というと、知らない人から無理やり、

力づくで、といういわゆる強姦^{注1}のイメージがあるかも知れませんが、性暴力被害は、知っている人から約80%とされています^{注2}。たいていの性暴力は、同級生、指導教授、上司、近所のおじさんといった「顔見知り」からのものです。そうした人たちは、ナイフを出して脅して強姦することはありません。そうした場合、日本では刑事事件になることは少ないんです。

性的同意で守られるべきこと

Q あらためて性的同意を取ることは、どうして大事なんでしょうか。

井上 3つことをしっかり守るためだと思います。1つ目は、「身体的な尊厳」。手を握る、肩を触るなど、特にプライベートゾーンと呼ばれる口・胸・性器への身体的な接触。ある大学の先生は、飲み会のときなどで、つい手を握ったりするときにも、「手を握っていいで

すか」と聞きなさいと言われました。そしてら受講者の誰かが「いちいち聞けない」と。先生は「じゃあ、やめときなさい」と言っていました。身体的な尊厳を守るといっているのはそういうことです。

2つ目が、「性的自己決定権」。セックスをするかどうかは誰かが決めることではなく、自分が自分の意思で決めるもので、例えば、セックスをしたくないという場合はそれをきちんと相手に伝えるのが当たり前の権利です。

3つ目が、「性と生殖に関する健康・権利」という考え方。避妊する、子供を持つ、持たないというのすべて自由であるという権利を指しています。

「付き合っている」≠「性的同意を得ている」

Q 性暴力の背景に、「性的同意」に対する認識の低さがあるのではないかと感じています。現場で会っている被害者の方、大学生や若い方は、どのように「性的同意」を考えているのでしょうか。

井上 まず、特に被害者支援の現場では、性的同意が重要だという考え方が浸透していないと感じます。あと「酔っばらって」というのもすごく多い。酔っていたから、後から聞いてもほとんど記憶がない。ちゃんと正気な話し合っ、判断できる状態じゃなきゃ、セックスをしてはいけないし、同意が取れないような状態で、人とセックスをするべきではない。そういう性教育を受けていない。そこに一番問題があると感じます。

Q 大学生の男女間でも、性的話をしない、合意の話もしない。酔ったときに何か起こっても「まあしょうがないよね」と感じてしまっ、あらためてそのことについても言えないという雰囲気がすごくあります。

井上 あと、そもそも「付き合っている」と言ったらセックスしてもいいと思っっていない？

Q それは多分、多いと思います。大学生では、暗黙の了解みたいな感じですか。

井上 「付き合っている」だけで同意が取れている、何でもしていい」というのは思い込みです。まず、付き合い始めたときに、私たちはどう

するのかという「同意」が全然出ていない。セクシュアルな面も含めてコミュニケーションをしっかりと取るべきですが、これを親の世代でもよく分かっている場合が多い。だから、子どもが被害にあったり、何か困ったことがあったりしても、親も気が付かないケースがある。

Q 性的同意が意識されない、大事にされない。その背景は何でしょうか。

井上 男女は対等平等であるはずなのに、京都SARAで女子高校生や女子大学生の被害者に会って、自己主張をしない、おとなしい人が多い。理由を聞いたら、「場を乱しちゃうけない」とか、「自分よりも相手がどう思っているかを考えて行動しなさい」と小学校からずっと教えられているから、嫌だと言出しにくいと答えます。

Q 最後に、被害者の方と接するとき大切にしていることは何でしょうか。

井上 私はナラティブアプローチという、物語をともに作るというカウンセリングをしていて、相手からとにかく話を聞くようにしています。同じような性暴力にあっても、被害者は一人ひとり、性格も人生も境遇も全部違うので、やっぱりその人らしい、異なる「性暴力被害者ストーリー」になるんです。

Q それと、私たちがやっているフェミニストカウンセリングでは、「Personal is political」という根本理念があって、「個人的な問題は、政治的・社会的な問題だ」と考

えています。カウンセリングを通じて、その人が変わっていった、また新しい生き方を見つけていけるようにサポートをしています。それと同時に、性や性暴力に対する社会的意識や法律など、被害者の方と一緒に社会を変えていきたい、そんな風に思っています。

注1 平成29年の刑法改正で強姦(ごかん罪を「強制性交等罪」に改め、「加害者は男性、被害者は女性」とされていた部分は性別の規定を撤廃。法定刑の下限を懲役3年から5年に引き上げた。強姦罪や強制わいせつ罪などに問うために必要だった被害者の告訴を不要にした。しかし、改正後の強制性交等罪の条文にも「暴行又は脅迫を用いて」と文言は残されたままとなった。

注2 令和5年の改正で、「強制性交等罪・準強制性交等罪及び強制わいせつ罪」を「強制わいせつ罪が不同意性交等罪」、「不同意わいせつ罪」に改められ、「同意しない意思を形成・表明・全うすることが困難な状態」が中核的な要件として定められました。

注3 平成23年度「男女間における暴力に関する調査」より(内閣府)

井上さんの著書



フェミニスト
カウンセリング
への招待
井上摩耶子著
ユック舎



フェミニスト
カウンセリング
の実践
井上摩耶子編
世界思想社

教育者の立場から

これまで長年、教育者の立場から学生を中心に性教育の重要性を伝え続けてきた関口さん。性教育の現状について、また性教育と性的同意との関わり、さらに、性的同意を取ることとは具体的にどのようなことなのか、お話しを伺いました。



せきぐち ひさし
関口 久志さん

京都教育大学教授
京都の府立高校で25年間の勤務中、「性」をテーマに生徒の交流を重視した数多くの教育実践を行った。2003年に退職し、同年4月より千葉大学、都留文科大、横浜国立大などの講師として「性・ジェンダー」の講義を受け持つ。「性の伝道師」として、全国の学校・自治体などで性・ジェンダーに関する講演を多数行う。性の総合情報誌「季刊SEXUALITY」(エイデル研究所編集委員)。

今の性教育の課題… 学んでいないことの再生産

Q 今の性教育の現場の課題は何ですか。

関口 日本の性教育の多くは、いきなり避妊とかコンドームを使えとかの内容になっていて、関係性を扱うことがものすごく少ないんですね。性行為というのは関係性の中で行われていることですが、それに言及した性教育がないから、例えば性暴力があつたとして、それを被害と気づくことも、加害と気づいて止めることもできない。だから学生たちは無知ですし、性を学んだことがない人が大人になって、性について「恥ずかしい、いやらしい」「教えるべきでない、知るべきでない」と、一種のタブーにしまっているから、どう教えたらいいのかわからない。日本の性教育は

すね。これがいわゆるセカンドレイプ、心理的に受ける2回目のレイプです。友達も理解できてないから、被害を気づかせてもらえない。むしろ自分の防衛能力、予防能力が低いと責めてしまうことさえある。この事例で警察に行ってもおそらく事件にはなりません。でも、心からのイエスはどこにもない、これは明確な暴力で、人権侵害なんです。性被害にあつても、圧倒的に「ほぼ誰にも言っていない」なんです。内閣府の調査では、無理やりセックスされても3分の2は誰にも相談していない(注1)。だから暗数(あんすう)が多い犯罪だと言われています。暴力や被害にあつても言えない。そういう前提が非常にまずい。先生や学校が信頼できる場所になっていないし、親もそうなんです。僕が信頼している産婦人科の先生は、自分の娘や息子に教育してるんですよ。何かあつたときにお母さんはあなたの味方だから。困ったとき力になるから。そんな姿勢がものすごく大事なですね。何かあつたときはあなたの味方。性に関しても、そういう相談ができるキーパーソンが大事なんです。そして、相談する相手に一番多いのが友人です。なので、ちゃんと聞いてあげてあげていのが大事ですよ。そして、相談機関につなげてあげる。もちろん、相談する、しないは、被害にあつた本人が決めます。

この「学んでいない」の再生産になってしまっている。あと、男性が性の学習をしているのは、ほとんどアダルトコンテンツなんです。あの中は性暴力のオンパレードで、非常に貧しいセックス観になるんです。あんなワンパターンの暴力的なセックスをテキストにしてはいけないし、特に男子にとって、アダルトビデオやアダルトコンテンツを批判的に読み解く能力は必要だと思います。

性を学ばせない!! 被害にあいやすい→セカンドレイプへ

Q 現場や親から、もっと教えてほしいと声がかかることはなかったんですか。

関口 保護者も先生も、実は表面化してないから困ってないというのが現実です。日本の教育現場では性行動は不良行動と捉えられ、基本的に、「学生や生徒はセックスはしてはならない」

性暴力であるという気づきと 「断り方・断られ方」のライフスキル

Q 性被害にあつても認識できず、相談できない。そういう人に対するアプローチは?

関口 一つは、その行為が性暴力であるという気づき、です。気づくためには教育が必要で、それを予防するような、手段や断り方というライフスキルみたいなものも必要になります。性暴力というのは、夜道に見知らぬ人から襲われるというよりは、知っている人、好きな人から屋内で迫られる、被害を受けるというのがほとんどで、被害者というのはだいたい弱い立場なんです。経済的な立場、地位、腕力、知的な能力、色んなものを利用される。だから、相手も傷つけない、自分も傷つけない断り方を考える教育は必要です。それは、性的自己決定力をつけるということ、NOといえる力です。

また、断られるトレーニングというのも必要です。人間って、断られたら、全人格を否定されたみたいになってしまう。特に中学生、高校生くらいだと「人生終わりだ」って。でも「そんなことはない、そのことでああなたの価値が下がるわけじゃない」としっかりと伝えて、嫌と言われたときにそれを受け入れるトレーニングを行う。自分も傷つかないし、待つてあげなければという、ベストアンサーを考える。そんな断り方・断られ方のライフスキルです。



Q イギリスで紅茶の例を使っていた教材があります。紅茶を勧められても、紅茶がもともと好きじゃない人もいるし、今は飲みたくない人もいる。セックスもそれと同じですね。

Q それは全部に当てはまると思います! イギリスのメディアが記事にしていたのを見ました。

性的同意とは、積極的な4つのイエス

Q 性的同意を取るとは、具体的にどのようなことなのでしょうか。

関口 僕が授業ですつと言っているのは、「対等、平等に、合意、納得したか」ということ。ここでいう「合意、納得」というのは、消極的なイエスではなく、わは、積極的なイエスという形でお互いが次の4つを同意することです。1つ目はもちろん相手。そして、2つ目は時。例えば、恋人同士夫婦でも、今日は嫌、今は嫌、というときはありますよね。3つ目は場所。例えば、プライバシーが守られない階段の踊り場とか、駐車場の車の中は嫌だとか。そして4つ目は方法。避妊をどうするのか、性感感染症予防をどうするのか。「対等、平等に、合意、

誰も傷つかない 傷つけないために BOOK LIST ブックリスト

ウィングス京都 図書情報室では、男女共同参画に役立つ資料を閲覧・貸出しています。今回は「性的同意」について広く学べる資料をご紹介します。ぜひご活用ください。



デートDV・ストーカー対策の
ネクストステージ
伊田 広行 / 著 解放出版社



デートDVと学校
高橋 裕子 / 編著
エイデル研究所



デートDV
遠藤 智子 / 著
ベストセラーズ



ここがポイント！
性との生のはなし60選
大戸 ヨシ子・佐藤 明子・村瀬 幸治 / 編著
エイデル研究所



こんなに違う！世界の性教育
橋本 紀子 / 監修
メディアファクトリー



デートレイブってなに？
アンドレア バロット / 著
大月書店



保健室の恋バナ+α
金子 由美子 / 著
岩波書店



レンアイ、基本のキ
打越 さく良 / 著
岩波書店



ハタチまでに
知っておきたい性のこと
第2版
橋本 紀子・田代 美江子・関口 久志 / 編
大月書店



愛する、愛される
山口 のり子 / 著
梨の木舎

関口さんの著書



教科書にみる世界の
性教育
関口久志 橋本紀子 / 編
東京：大月書店



新版
性の“幸せ”ガイド
関口 久志 / 著
東京：エイデル研究所

〔注〕男女共同参画白書 平成28年版

納得した相手、時、場所、方法、この4つに合意がないとき、どこかで暴力があったと思いなさいと言っています。この同意のハードルは下げてはいけない、これを口がすっぱくなるまで言い続けているんです。

関口さん伝授！ 性的同意の取り方・断り方

「わたし(ぼく)はセックスしたい。
でもあなたがしたくても、したくなくても、大好きだよ。」

「途中で嫌になったら言ってもいいよ」

「週一回は少ないと感じてる。〇〇はどう？」

「〇〇が準備ができるまで、わたし(ぼく)は待つよ」

同意の 取り方の 具体例



「大好きだけど、今日はしたくない」

「今日はしたくないけど、今度いっぱい楽しいことしよう」

(どうしても断りにくいとき)「今日は体調が悪い」

「キスはしてもいいけど、セックスはしたくない」

断り方の 具体例



でも
大好き!!

